

# としょかん だいごう 図書館だより 第1号

令和2年6月5日  
横浜市立豊田小学校  
校長 垣崎授二  
学校司書 高橋博正

みなさん、この度の新型コロナウイルスは、私たちの生活にかつてないきびしい試練を与えてきました。今回の緊急事態宣言により、長きにわたり休校措置と外出自粛要請により、不便と不安を感じた日々を過ごされたと思います。学校図書館も3月初めから突如閉館状態となり、毎年度末の図書館だよりで発表していた年間の読書傾向の数字も報告できない状況となり、残念な思いをしていました。

さて、長い休校期間が明け、ようやく分散登校ではありますが、学校活動が再開することとなりました。学校図書館から発行する今年度最初の図書館だよりは、自分よりも他人をおもいやるお話の絵本や、辛い経験や逆境をはね返し、やがては素晴らしい未来へと歩んで行く人々の物語を紹介いたします。

## あしたむほんしょうかい 明日に向かう本の紹介

**本の名前:** ちいさなくれよん

**作者:** 篠塚かをり 作 安井 淡 絵 **出版社:** 金の星社

**本の住所:** 外国のえほん E ピンク **対象学年:** 低学年

### おすすめポイント:

折れて短くなってくずかごに捨てられた きいろいくれよん。  
「ぼく、まだ描けますよ。まだきれいにぬれますよ。」と大きな声で呼んだけれど、だれもひろいにきてくれません。そこでくれよんはひとりで広い世界へでて行くことにしました。そして、くつについているひよこの絵や、おもちゃの黄色い自動車をきれいにぬりました。男の子になげすてられたくれよんは、小石をきれいにぬってあげました。でもくれよんは、まめつぶみたいに小さくなってしまいました。日が暮れて空に光るお星さまを見ていたくれよんは、お星さまをきれいにぬってあげたいと思いました。するとくれよんに大きな大きな力がわき、やがて……。



**本の名前:** やなせたかし 愛と勇気を子どもたちに

**作者:** 中野晴行 文 **出版社:** あかね書房

**本の住所:** 289 や **対象学年:** 中・高学年

### おすすめポイント:

やなせたかしさんは、アニメ「アンパンマン」の生みの親として、また子どもの歌「手のひらをたいように」の作詞者として有名になりました。この本は、やなせさんがなぜ漫画家になったのか。そして、お腹がすいて困っている人たちに、自分の顔を食べさせて元気にする「アンパンマン」という、ヒーローを作ったのか。また、「手のひらをたいように」の詩がどのようにしてつくられたのかなど、やなせさんの伝記としてわかりやすく書かれています。

今回私がこの本を紹介する一番の理由は、今世界中にコロナの恐怖が蔓延する中、よくニュースではリーマンショック以来と報じられていますが、本当に恐ろしい出来事は第二次世界大戦ではなかったでしょうか。やなせさんは、その恐ろしい戦時下で、「本当の正義の味方」をすでに頭の中に描いていたという事実を読んだとき、新たなヒーローが生まれるのもそう遠くはないかな、と感じました。



本名: 大村 智 ものがたり 苦しい道こそ楽しい人生

作者: 馬場 錬成 出版社: 毎日新聞出版

住所: 289 お

対象学年: 中・高学年

おすすめポイント: 微生物の研究からノーベル生理学・医学賞を受賞した

大村 智さんの伝記です。受賞時には、研究の内容や受賞するまでの苦労話などが報道されたのが思い起こされます。もちろんこの本でも主に後半では研究内容が、徐々に世界中の学者たちに認められていくまでのプロセスがスリリングに描かれており、一つの見所になっています。

伝記の良いところは生まれた境遇や、少年時代の環境などや、成長過程の中でどのようなことがノーベル賞受賞の研究へとつながっていくのかを知ることができるという点が一つの魅力です。

私がこの本を読んで特に心に残ったことは、小学校の教師をしていたお母さんが、終戦後お父さんと養蚕業を始めた時に、どうすればカイコが丈夫に育つかなど、カイコの成長記録を克明に養蚕日誌につけていたこと。そしてそのお母さんの日誌の裏表紙に「教師たる資格は、自分自身が進歩していることである」と書かれているのを、当時小学校高学年だった智少年がはっきりと記憶し、大人になってからもこの言葉を自身の教訓にし、いつも心の中で繰り返し思い出していたと記述されている部分です。

私もこの言葉を心に刻み、自分自身が進歩しているかを自省して行きたいと思います。



本名: 伝記を読もう 荻野吟子 日本で初めての女性医師

作者: 加藤純子 文 出版社: あかね書房

住所: 289 お

対象学年: 中・高学年

おすすめポイント: いまでも医者になるのはとてもたいへんなことです。

吟子が生まれた1851年、日本はまだ江戸時代から明治に変わる大変な時期でした。当時は、女の人が医者になるための学校もありませんし、医者になることもゆるされませんでした。しかし吟子は「どうしても医者になりたい」と心に決めていました。なぜ吟子はそれほどまで医者になることにこだわったのか。それは吟子が重い病気を患い、苦しく恥ずかしい思いをしたからです。病気を治療するためには、身体を若い男の医者たちに診せなければなりません。それがまだ若い吟子にはあまりにも辛いできごとでした。その経験は吟子に「私以外にもまだたくさんの恥ずかしい思いをしている女性がいるはずだ。いやそれどころか病気になっても医者に診せない女性もいるに違いない。」そして吟子は病院の白い天井を見ながら、「わたしが医者になって、困っている女の人たちをみてあげたい」と日本で初めての女性医師になることを誓ったのです。今では日本中の医師の約2割が女性医師です。

今回私がこの本を読んで一番感動したのは、男尊女卑の時代に敢然と立ち向かい、女性の地位と権利を勝ち取った女性闘士としての姿より、吟子が時代の荒波にもまれながらも、回りのいろいろな人の力を借りて、模索しながらも確実に自分の夢を実現する姿です。私はここに感銘を受けました。それは新型コロナウイルスに苦しめられる中で、世界中の人々の力を結集し、困難に立ち向かっている人類の今の姿に重なって見えたからです。そこには医療従事者だけでなく、ライフラインに従事する方々をはじめ、もっと身近な人々の支えや応援によって、私たちの明るい未来が照らされています。そして何よりも、私たち一人ひとりの行動や言動からも未来を明るくできると確信したのです。



次回の第2号は、令和2年度の読書感想文課題図書を紹介をする予定です。お楽しみに。